

みんなで調布市の未来の環境を考えよう!!
ワークショップ実施結果
報 告 書

～ 調布市環境基本計画策定に向けて ～

平成27年11月

調 布 市

目 次

1	ワークショップの実施目的	1
2	開催日時及び参加者数	1
3	ワークショップの実施方法	1
4	各グループにおけるワークショップの進め方	2
5	ワークショップで使用した資料	3
6	ワークショップ開催前に提出していただいた意見	3
7	ワークショップでの主な意見	4
8	ワークショップのまとめ	11
9	ワークショップの実施状況	13
10	ワークショップでの全ての意見	27
11	付属資料	53

1 ワークショップの実施目的

ワークショップは、次期調布市環境基本計画（以下「次期計画」という。）策定に当たり、市民参加手続きガイドラインに基づく市民参加手続きの一環として、多様な市民の御意見を広く聴取し、課題解決等に向けた施策へ活かして行くことを目的に、開催した。

2 開催日時及び参加者数

ワークショップは、下記の表に示す日時、場所において、原則事前の参加申込を前提に開催したが、参加人数により、当日参加も可とした。

なお、合計参加者数は31人であった。

回	年月日	時間	会場	参加者数
1	平成 27 年 10 月 2 日（金）	午後 6 時 30 分～ 午後 9 時 00 分	文化会館たづくり 1002 会議室	8 人
2	平成 27 年 10 月 4 日（日）	午後 2 時 00 分～ 午後 4 時 30 分	市民プラザあくろす 3 階ホール	10 人
3	平成 27 年 10 月 5 日（月）	午後 1 時 30 分～ 午後 4 時 00 分	文化会館たづくり 1002 会議室	13 人
合 計				31 人

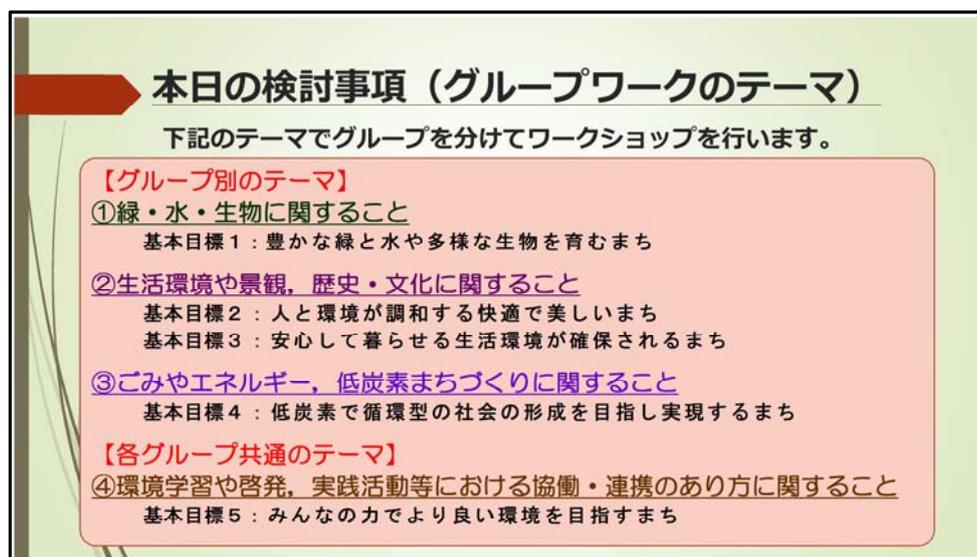
3 ワークショップの実施方法

事前に市ホームページにて掲載した検討テーマに沿って、当日は参加者の御希望を踏まえ、①緑・水・生物に関すること、②生活環境や景観、歴史・文化に関すること、③ごみやエネルギー、低炭素まちづくりに関することの3つのテーマ毎にグループを分け、④環境学習や啓発、実践活動等における協働・連携のあり方に関することは、各グループ共通のテーマとした。

ただし、グループの人数に偏りがある場合には、人数の多いグループから少ないグループへ移動をお願いし、また、人数が少ない場合には、2つのグループを1つにまとめるなどのグループの再編成を、参加者の御理解を得て行った。

この他、各テーマのグループには、市職員とファシリテーター各1人を配置し、ワークショップを進行した。

【以下は当日のスライド資料からの抜粋】



本日の検討事項（グループワークのテーマ）
下記のテーマでグループを分けてワークショップを行います。

【グループ別のテーマ】

①緑・水・生物に関すること
基本目標1：豊かな緑と水や多様な生物を育むまち

②生活環境や景観、歴史・文化に関すること
基本目標2：人と環境が調和する快適で美しいまち
基本目標3：安心して暮らせる生活環境が確保されるまち

③ごみやエネルギー、低炭素まちづくりに関すること
基本目標4：低炭素で循環型の社会の形成を目指し実現するまち

【各グループ共通のテーマ】

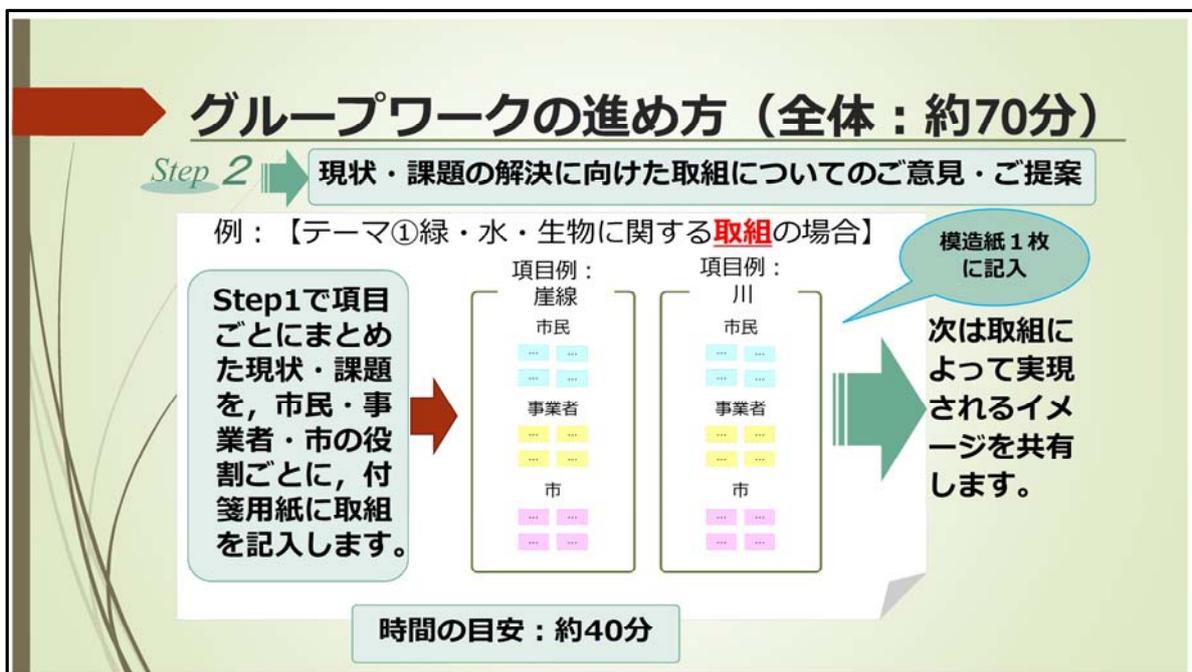
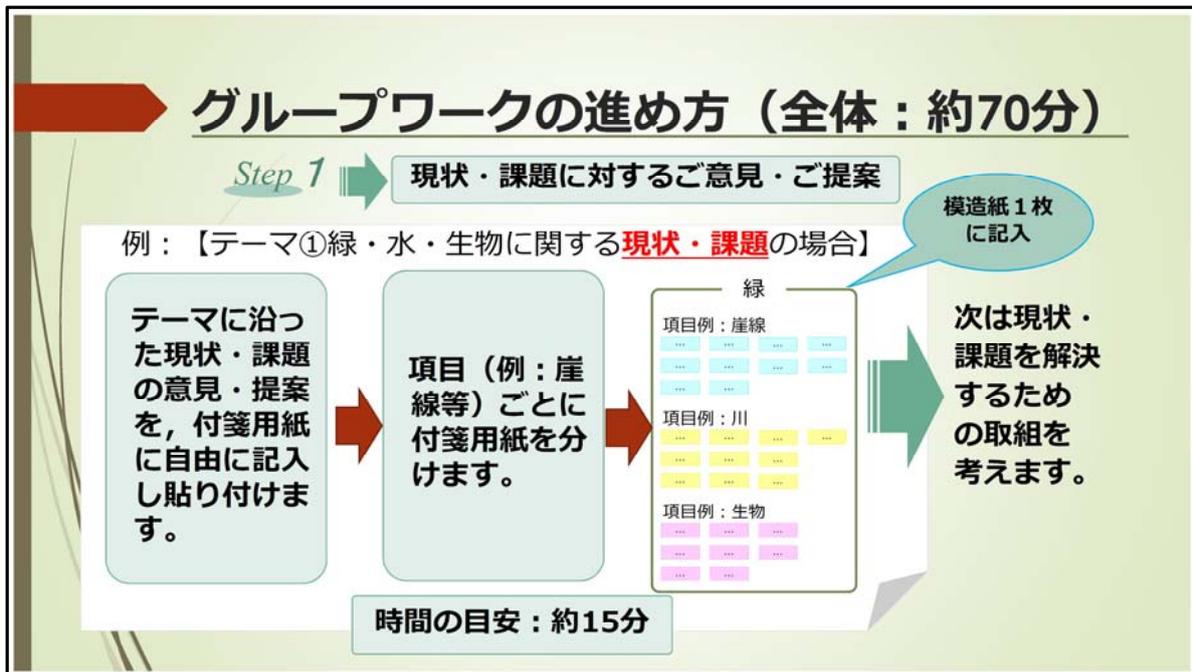
④環境学習や啓発、実践活動等における協働・連携のあり方に関すること
基本目標5：みんなの力でより良い環境を目指すまち

4 各グループにおけるワークショップの進め方

各グループでは、次項の第5ワークショップで使用した資料のうち、特に、資料2「次期調布市環境基本計画の施策体系（案）」などを参考としながら、ステップ1「現状・課題に対する意見・提案」、ステップ2「現状・課題の解決に向けた取組の意見・提案」、ステップ3「目指す将来像のイメージ」について順次検討し、各ステップにおいて参加者それぞれが、意見を付箋用紙に記入し、ファシリテーターが内容に沿って意見のグループ分けを行い整理した。

グループワークの最後には、各グループで出された意見をまとめて、グループの参加代表者に発表していただいた。

【以下は当日のスライド資料からの抜粋】



グループワークの進め方（全体：約70分）

Step 3

基本目標（目指す将来像）に近づいたことが
わかる状態についてのご意見・ご提案

例：【テーマ①緑・水・生物に関する10年後及び**将来のイメージ**】

Step2の取組
を実現した場合、
10年後及び
将来どのような
状態になるかを、
グループで話し
合い、記入し
ます。

項目例：
崖線

【10年後の
イメージ】

・崖線樹林地の市民
ボランティアが活発
に行われるまち

・○○○○・・・

項目例：
崖線

【将来のイメージ】

・市民が身近な緑に
愛着を感じるまち

・○○○○・・・

時間の目安：約15分

5 ワークショップで使用した資料

(1) 配布資料

- ア ワークショップ資料1 みんなで調布市の未来の環境を考えよう!! ワークショップ
(第11付属資料 55ページ～57ページ)
- イ ワークショップ資料2 次期調布市環境基本計画の施策体系(案)
(第11付属資料 59ページ～90ページ)

(2) 参考資料(閲覧用)

- ア 調布市環境基本計画(現行)
- イ 未来へつなぐ調布の環境～平成25年度 環境年次報告書～
- ウ 調布市まちづくりデータブック2013
- エ 調布市環境基本計画 検討資料
- オ 調布市の環境に関する市民アンケート調査結果報告書

6 ワークショップ開催前に提出していただいた意見

グループワークの実施に当たり、第2に示した開催日時に参加出来ない参加希望者への配慮から、第5に掲げた当日のワークショップで使用した資料について、平成27年9月28日に市ホームページに掲載し、事前の意見提出として受付け(同年10月1日正午まで)、同意見についてもワークショップを通じて提案される意見と同様に取扱う旨を併せて広報した。

なお、結果としては、本ワークショップに係る事前意見は提出されなかった。

7 ワークショップでの主な意見

各グループから出された主な意見を、各回のテーマごとに以下のとおりまとめた。

なお、主な意見については、付箋に記載された内容について、一部要約、修正等を加えている（ワークショップでの全ての意見は28ページ～51ページに記載）。

(1) テーマ①，テーマ④についての検討

ア 第1回：10月2日開催，グループIについて

ステップ1

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> テーマ①・調布市の環境の特徴として緑や湧水が多く、それらが生き物のすみかになっていることが挙げられるが、近年はそのような環境が減ってきていることが課題である。・外来植物や動物が増えた。<input type="checkbox"/> テーマ④・若い人のボランティアが少ない。 |
|--|

ステップ2

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> テーマ①・緑地保全制度の活用，雨水浸透ますの設置や下水道の改善，外来生物の防除等の取組が必要。<input type="checkbox"/> テーマ④・ボランティアへの仕組みづくりが必要。 |
|---|

ステップ3

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・湧水を活用している調布。・いつでも川遊びができるまち(水がきれい)。・在来の生態系が元気なまち。・生物にやさしいまち。・農地緑地が残るまち。・深大寺の寺領と共有した緑地政策。・緑が多く，きれいな川でいきものとあそべるまち。・老若男女が緑地保全活動に取り組んでいるまち。 |
|--|

<p>○将来の環境のイメージは， 「<u>緑が多く 水のきれいな いきものと遊べるまち</u>」。</p>

イ 第2回：10月4日開催，グループIについて

ステップ1

- テーマ①
 - ・外来種の生き物(植物・魚等)が見られる。
 - ・鉄道跡地の利用が課題である。
 - ・田畑，崖線，多摩川，野川等の緑がたくさんあるが，それらが損なわれているとの共通認識を持っており，遊び場が少ないと感じている。
- テーマ④
 - ・環境活動を始める若い人が少ない。

ステップ2

- テーマ①
 - ・外来種の防除，農地や市民農園の活用，京王線跡地の有効活用といった取組が必要。
- テーマ④
 - ・子ども向け環境イベントを開催する。

ステップ3

- ・点ではない線となる多様な緑や水環境の実現。
- ・学校などの施設に大型貯留タンクがあり，雨水を活かし防災にも備えたまち。
- ・野川の復活→子どもの遊び場，生物環境の多様性
- ・豊富な湧水が必要 モデル作り。
- ・野川で大人も子どもも遊ぶ。
- ・遠くへ旅行するより，地元をたがやして，人を呼ぶ暮らしにしてゆき，普段から心の洗濯を。
- ・身近に緑を感じることができ，気軽に触れ合える。
- ・街路樹が豊か。
- ・緑・水等の自然が保全されているまち。
- ・里山に大人も子どもも親しんで守ってゆくまち。
- ・多様な生きものと人が共存しているまち。
- ・京王線跡地を緑化して，中心市街地を，ゆたかに。
- ・身近で多様な環境を誇りにできる調布の子どもたち。
- ・駅，学校から帰宅する際，緑や水(川)，生き物から四季の変化を感じられるまち。
- ・お母さんが住みたいまち 子どもを育てたいまち。

○将来の環境のイメージは，
「自然との共生をめざすまち」。

ウ 第3回：10月5日開催，グループIについて

ステップ1

テーマ①

- ・オリンピックに向けた緑の整備が不明である。
- ・多摩川は汚れており，ワンドが変化して親水性が乏しくなっている。
- ・散歩に訪れる外国人が増えているので，環境の良さを何かアピールできるとよい。
- ・生物・植物のデータベースがあるか？（どこかにまとまっているか？）

テーマ④

- ・子どもへの環境教育が不足している。

ステップ2

テーマ①

- ・オリンピックに向けて，まちづくりを考えていく必要がある。
- ・ワンド周辺の整備が必要である。
- ・多摩川は中国人，台湾人その他外人が多く来る所であるため，英語他の看板等で対応して欲しい。
- ・生物の現状を把握するために，データの蓄積が必要である。

テーマ④

- ・環境教育への手伝いを行い，子どもたちに自然の良さを伝える。

ステップ3

- ・化学物質に汚染されていない自然に子どもたちがふれあうことができるまちにする。
〈放射能汚染を心配して野外活動に参加する親子がへっているため〉
- ・子どもたちが自然にしたしめるまち。
- ・子ども・次世代へ自然を保全する大切さを引継げるまち。
- ・駅をおりた時から「環境を配慮した市」だとすぐ分かるまち。
- ・今やることは『子どもたちのために』より先に『自分たちがいかに良く暮らせるか』を考えてやる必要あり。
- ・樹林地・川辺を身近に感じ親しめるまち。
- ・調布駅に降り立ったとき，ほっとできる。駅前に緑がある。足を伸ばすと小川と雑木林がある。
- ・緑と水と太陽のまちが調布のイメージになればと。
- ・子どもから高齢者まで緑や水に親しめるまち。
- ・高齢化に対応でき，市内の色々な場所で水と緑に親しめる。
- ・多摩川流域の課題に対して関連する行政を結んだシステムができています。
- ・緑の問題について関連する行政を越えてシステムができています。
- ・京王線の駅前に“緑”を増やしたい。
- ・調布駅前の出店規制を希望。パチンコ，ゲーム店を何とかしたい。

○将来の環境のイメージは，
**「子どもから高齢者まで自然と親しめるよう垣根を越えた
行政・市・事業者が連携するまち」。**

イ 第2回：10月4日開催，グループⅡについて

ステップ1

□ テーマ②

- ・花火，ボール遊びができる公園が少ない。
- ・マンション(高層)が増え，富士山が見えなくなった。見渡した景観の悪化が気になる。

□ テーマ④

- ・おおらかに子どもが育つ景観づくりや，風景づくりが必要。

□ テーマ③

- ・ゴミの減少割合がのびない。
- ・エネルギーの自給社会へ 昔はマキなどで自給していた。今は電気だが，自然再生エネルギーを使って自給する必要がある。

□ テーマ④

- ・市民の自覚や活動意識の広がりが足りない。

ステップ2

□ テーマ②

- ・花火やボール遊びができる公園を増やす。
- ・景観とまちづくりをあわせて考える。

□ テーマ④

- ・住民は，花火，ボール遊びなどへの理解が必要。
- ・子どもは，花火，ボール遊び時の近隣住民に対して配慮する。

□ テーマ③

- ・ごみのリサイクルをさらに進める。
- ・エネルギー自立を目指すべきだが，再生可能エネルギー等は経済性も考えなければならない。

□ テーマ④

- ・環境教育，啓発活動への市民協力を行う。

ステップ3

□ テーマ②

- ・景観づくり，景観づかい，景観づきあい
で有名なまち。
- ・小水路や，緑の水辺がある，ウナギなどが
すめる自然豊かなまち。
- ・緑の中で全世代が心穏やかにすごせる
まち。
- ・すてきに暮らせる環境にやさしいまち(景
観もよく，低炭素にも積極的にとりくむ
まち)。
- ・子どもがのびのび外で遊べるまち。
- ・排ガス公害のないきれいな空気が吸える
まち。

□ テーマ③

- ・「そういえば昔は，プラスチックのゴミの
日ってあったなあ」と資源を有効活用でき
ているまち。
- ・低炭素・自然エネルギーで自立の持続可能
なまち。
- ・市民・事業者・行政が協力し合って，低炭
素のまちづくりを行うまち。
- ・再生エネルギーによるエネルギー自給でき
るまち。
- ・低炭素で持続可能なまち。

○将来の環境のイメージは，

- ・「再生可能エネルギーを活用したエネルギー自立のまち」
- ・「低炭素で持続可能なまち」
- ・「緑・水辺の自然が保全されているまち」
- ・「子どもがのびのび外で遊ぶまち」

→ 協働で進めるまちづくり

(3) テーマ②, テーマ④についての検討

ア 第3回: 10月5日開催, グループⅡについて

ステップ1

テーマ②

- ・黒いススは, 減ったように見えるがススが小さくなっただけ。PMは減っていない。
- ・緑が多いので, 都心より2~3度温度が低い。
- ・深大寺・青渭神社を中心とした, 江戸時代以前からの祭りがある。
- ・「空き家対策」の具体策はどうなっているのか?

テーマ④

- ・おおらかに子どもが育つ景観づくりや, 風景づくりが必要。

ステップ2

テーマ②

- ・市民一人ひとりが公共交通利用を心がける。
- ・農地を風景として守っていく。農業を続けることが可能になるような支援を行う。
- ・深大寺を始め, 文化財(歴史遺産)と自然(森)を一体的に守る政策を進める。
- ・空き家対策等を進める。

テーマ④

- ・住民は, 花火, ボール遊びなどへの理解が必要。
- ・子どもは, 花火, ボール遊び時の近隣住民に対して配慮する。

ステップ3

- ・地産地消
- ・緑と人々の生活が豊かなまち。
- ・緑と花いっぱいのもち。
- ・ここに住みたいと思われるやさしいまち。
- ・緑が豊かで安全なまち。
- ・ちょっと不便でも緑と安全が優先されるまち。
- ・自然との「共生」, 自然エネルギー活用が目に見え, 感じられるまち。
- ・景観に恵まれたいつまでも住みたいまち。
- ・都市農地が保全されたまち。
- ・東西南北に風通しのよいまち。
- ・下水を川に越流させないようにしたい。

○将来の環境のイメージは,
・緑ゆたかで, 安全で清らかな水が流れ, さわやかな風がふきぬけるまち

(4) テーマ③, テーマ④についての検討

ア 第3回: 10月5日開催, グループⅢについて

ステップ1

テーマ③

- ・東日本大震災以降, 家庭やオフィスの省エネ (こまめな節電など) に限界を感じる。
- ・再生可能エネルギーの導入にはお金がかかり, 元をとることが難しい。
- ・家庭の省エネがまだ必要。
- ・発電量や消費量が可視化される工夫があると良い。

テーマ④

- ・省エネの啓発を行っても, 関心がない人には届かない。

ステップ2

テーマ③

- ・既存住宅の“省エネ”を進めるポイントを総合的に情報提供する。
- ・太陽光発電に対し, 補助金を出す。
- ・家庭のエネルギー低減に向けて正しく実践的な情報提供を行う。
- ・低炭素社会や温暖化対策に向けての啓蒙等を行う。

テーマ④

- ・若者が興味をもつような楽しいイベントで, エネルギーや省エネについて考える機会を増やす。

ステップ3

- ・住宅やビル, 公共施設まで人工的な設備に頼りすぎず, 自然と共生した, エネルギーに依存しない, 災害に強い自立したまち。
- ・再生エネルギーを中心に省エネ, 節エネが誇れるまち。
- ・地産地消のエネルギー会社が設立されているまち。
- ・子どもたちが安心・安全に遊べる施設を整えているまち。
- ・地球1個で生活していけるまちづくりの準備を10年間でする。
- ・市民・事業者・行政が力を合わせて低炭素のまちづくりを行うまち。
- ・市民と行政が協力し, 支援を必要とする人をサポートできるまち。
- ・市民が気づいたことを行政に連絡しやすいまち。

- 将来の環境のイメージは,
- ・ 地球1個で生活できる (足りる) まち。
 - ・ 自立して支援があり, 支えられ, 支えあう安心安全なまち。

8 ワークショップのまとめ

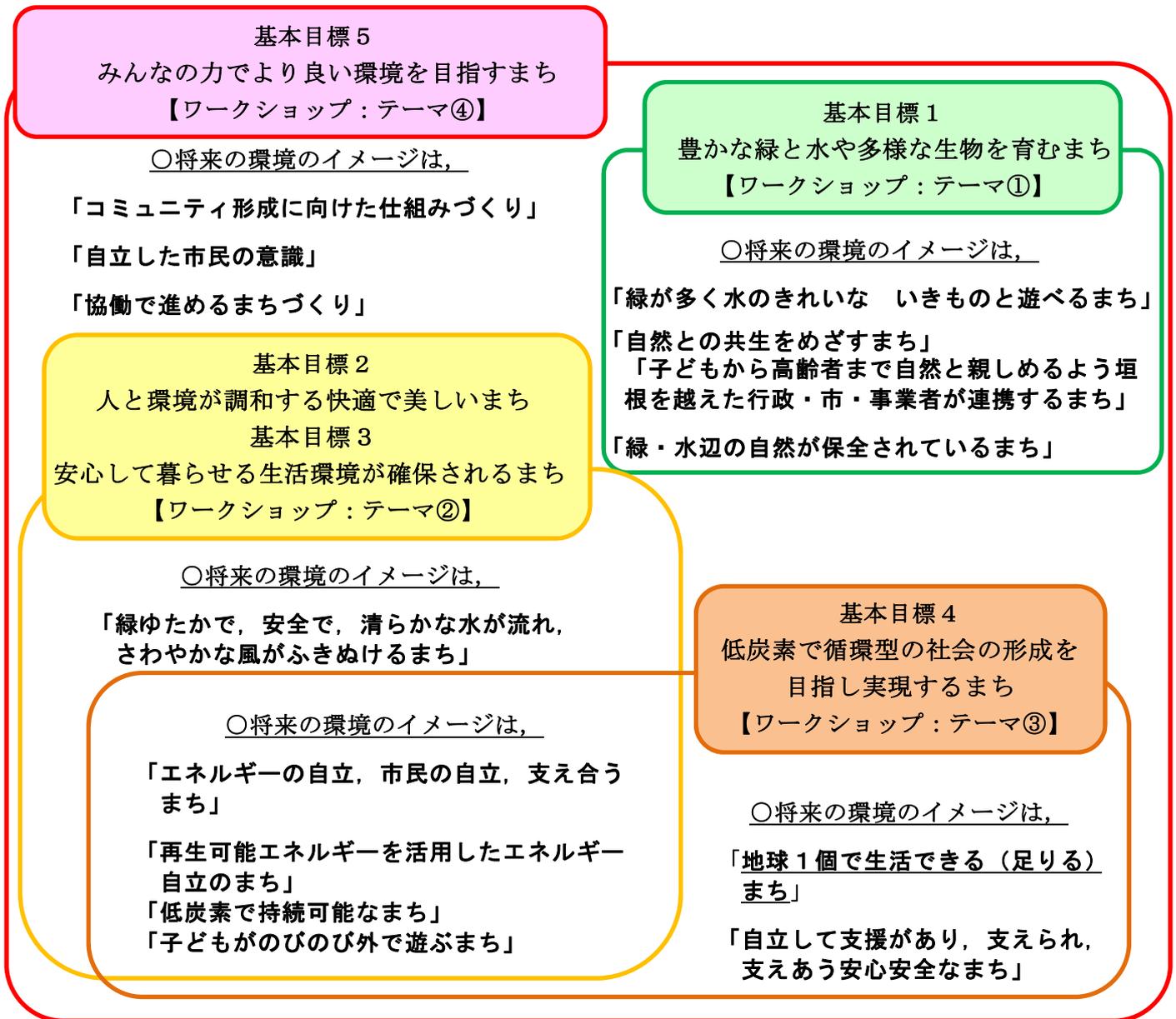
ワークショップ・ステップ1, 2でいただいた意見については、以下のとおり。

テーマ①に関することについては、「緑地保全制度の活用, 雨水浸透ますの設置や下水道の改善, 外来生物の防除等の取組が必要」といった緑地や水辺環境の保全並びに活用に関する意見と, それらの環境活動に対する市民への啓発や情報発信, 連携方法等に関する意見が多かった。

テーマ②に関することについては、「公害について即時性のあるデータを公表できるようにする必要がある」といった情報発信に関する意見と, 「おおらかに子どもが育つ景観づくりや, 風景づくりが必要」といった景観等に関する意見が多かった。

テーマ③に関することについては, 「ゲリラ豪雨による水害への対策を考える必要がある」といった局地的豪雨などの防災対策に関する意見と, 「家庭のエネルギー低減に向けて正しく実践的な情報提供を行う」, 「低炭素社会や温暖化対策に向けての啓蒙等を行う」といった省エネ等に対する市民への啓発や情報発信方法等に関する意見が多かった。

ワークショップ・ステップ3において、各回、各グループから御提案のあった「目指す将来像」と、現在策定中の次期計画の基本目標との相関は、下記の図のとおりとなる。



ワークショップで御提案いただいたステップ1、2、3の御意見等については、次期計画を策定する中で、基礎資料として活用して行くこととする。

9 ワークショップの実施状況
 第1回 グループI (テーマ①+④)
 <グループワークの様子>



<ステップ1:現状と課題>



<ステップ2:取組>



<ステップ3:将来像>

